

我が国初の森林鉄道
「津軽森林鉄道」
遺構群及び関係資料群

The Japan Forest Society
日本森林学会
林業遺産

2017年度「林業遺産」選定記念
シンポジウム

平成30年8月24日(金)

場所: 五所川原市金木町 津軽三味線会館 多目的ホール
16時00分~18時30分 入場無料

林業遺産「津軽森林鉄道」プロローグ 映像で見る懐かしの光景

1. 基調講演 (16:20~17:20)

小島 孝文 氏 「国有林野事業における森林鉄道の歴史的意義」

東北森林管理局長

矢部 三雄 氏 「我が国初の森林鉄道が津軽に建設された背景を探る」

富士大学客員教授 博士(農学) もと東北森林管理局長

2. パネルディスカッション (17:30~18:30)

「林業遺産」を地域振興にどう活かすか

主催 NPO法人かなぎ元気倶楽部

五所川原市金木町朝日山189-3 津軽三味線会館内

お問合せ先 Tel 0173-54-1616

E-mail okutsugaru-trail@kanagi-gc.net

一般社団法人 日本森林学会「林業遺産」 2017年度8件を選定しました

事業の背景と経緯

日本各地の林業は、地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出され、明治以降は海外の思想・技術も取り入れながら、大戦期の混乱を経て今日に至るまで、多様な発展を遂げてきました。

日本森林学会では、学会100周年を契機として、こうした日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を2013年度から開始致しました。

※学会報道記事より抜粋

ごあいさつ

NPO法人かなぎ元気倶楽部では、2013年度より奥津軽の産業や文化のルーツを探り、魅力ある観光地の再建・強化に取り組んでいます。

古より津軽半島共通の地域資源は「青森ヒバ」であり、半島全域の経済を支え、地域の文化を育んできました。この度の「林業遺産」選定を契機に、誇るべき地域の記憶をたくさんの人々に知っていただきたく、公開シンポジウムを開催する運びとなりました。この誇りを地域遺産として未来に伝えるために奮ってご参加ください。

- 16:00 プロローグ映像
開会のごあいさつ
- 16:20 基調講演
- 17:30 パネルディスカッション
- 18:30 閉会

【主催】

NPO法人かなぎ元気倶楽部

【共催】 奥津軽トレイル倶楽部

一般社団法人かなぎ元気村

【後援】

東北森林管理局

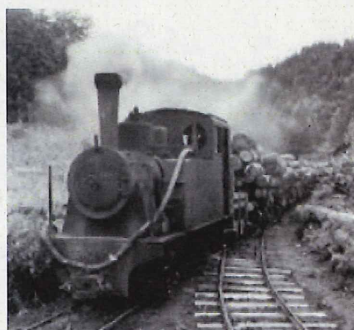
青森県東青地域県民局

青森県西北地域県民局

青森市、五所川原市、中泊町、
外ヶ浜町、蓬田村

2017年度林業遺産 (No.25)

我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群



津軽森林鉄道の写真類



津軽森林鉄道は、動力車による牽引を前提とする日本で最初の森林鉄道で、明治42(1909)年11月30日に竣工した。青森市沖館の青森貯木場を起点とし、全長は本線だけで67kmにおよび、日本で建設された全森林鉄道の中で最長を誇る。また、51路線の支線、分線を含めた総建設延長は283km、実運用最大延長は昭和33(1958)年の235kmであり、これらも日本最大である。

また、森林鉄道の動力車として最初に導入されたボールドウィン社製蒸気機関車は、その後、各地の森林鉄道において活躍した。なお、分水嶺を越える路線としても最初のものであり、2本の隧道が設けられるなど、その後の森林鉄道建設の基準となった。

現在、本支線の軌道跡、相ノ股隧道、ヒバ製及び鋼製橋梁等の遺構が豊富に確認され、ディーゼル機関車、客車なども保存されていることに加え、開設当初からの林道台帳および図面や写真類が多数保存されている。最近では、NPOによって森林鉄道遺構を巡る「奥津軽トレイル」が設定されるなど地域活性化の対象としても見直されており、遺構や車輛、資料群に林業遺産の価値が十分にあるとして選定した。

認定対象：【搬出関連】相ノ股隧道、ヒバ製及び鋼製橋梁等の主要遺構、幹部視察用客車あすなろ号、協三工業4.8t内燃機関車、モノコック鋼製運材台車、六郎隧道扁額
【資料群】関係営林署別旧林道台帳、津軽森林鉄道関連地図、実測図面類、写真類

所在： 青森県青森市、五所川原市、東津軽郡外ヶ浜町、同蓬田村、北津軽郡中泊町